

学位論文審査の結果の要旨

氏名	古安 理英子
審査委員	主査 井上 憲一 ㊞ 副査 赤沢 克洋 ㊞ 副査 能美 誠 ㊞ 副査 伊藤 勝久 ㊞ 副査 保永 展利 ㊞
題目	地域資源に対する旅行者選好の定量評価に関する研究 (A Study on the Quantitative Evaluation of Travelers' Preferences for Regional Resources)
審査結果の要旨	
<p>本研究は、従来研究ではその活用が十分ではなかった統計学的手法とシステム解析手法を駆使して地域資源に対する旅行者選好を定量的に把握するものである。</p> <p>まず第1章では、本研究の背景と目的について述べ、序論としている。</p> <p>第2章では、温泉地への期待を評価するために、BWSを用いて旅行者の温泉地への期待の重要度とその重要度の差をもたらす要因を解明している。その結果、食をベースとした魅力づくりや温泉情緒、温泉街散策、観光名所を融合した時間と経験の提供が温泉地への旅行者誘引に有効であることがわかった。また、女性の属性、旅行愛好の意識、非日常性、同行者、高揚感への期待をもつ旅行者が旅行者誘引にとって有効なターゲットとなることが示された。さらに、旅行者の属性・意識・発動要因と温泉地への期待の重要度には理論整合的な関係があり、それらがターゲットとニーズの指針となることが示唆された。</p> <p>第3章では、ジオ資源による旅行者誘引効果を検証するために、潜在クラス分析を用いて誘引要因に関する旅行者層を抽出し、ジオ資源の魅力を目指する旅行者誘因層（ジオ資源誘因層）の存在を検証するとともに、ジオ資源誘因層の特徴を把握している。その結果、抽出された6つの旅行者層の中にジオ資源誘因層（「自然ジオ層」「通常ジオ層」）が観察されたことから、ジオ資源による旅行者誘引効果の発生が確認された。また、自然ジオ層の特徴は「高年齢」「パック旅行者」「夫婦」「ビギナー」「隠岐一般視」「ジオ資源希求」であり、通常ジオ層の特徴は「自然・旅行・島愛好」「隠岐特別視」「ジオ資源希求」であった。さらに、マーケティング管理の方針として、自然ジオ層に対してはジオ資源と景色自然の訴求、入門・有名・定番の訴求、受動的な価値享受手段の提供、再訪問促進に向けた好意の醸成と期待感の喚起が重要となり、通常ジオ層に対してはマイナーな魅力の提示や種々の魅力の有機的な結合を意識した魅力の量的展開と質的深化、隠岐特別視の維持に向けた訴求価値の見極めが重要となるとした。</p> <p>第4章では、世界遺産による旅行の発動要因の充足を評価するために、パス解析とアソシエーション分析を適用し、世界遺産が発動要因への充足の期待や満足に寄与するか否かを評価の視点とした因果検証と強度検証を行っている。その結果、遺産資源は発動要因の充足への期待と満足をもたらす効果が限定的であり、遺産資源が充足できない発動要因を充足する補完的な役割を観光化資源が担って</p>	

いることがわかった。また、期待や満足をもたらす効果の多くが成果として顕在化しているが、遺産資源が発動要因の充足への期待をもたらす効果をはじめとしたいくつかのケースにおいて顕在化が十分でないことが示された。さらに、観光マネジメントの展開方向として、産業遺産に関わる観光化資源の充実、自然・食事・お土産を訴求点とした魅力づくりの強化、散策を前提とした周遊空間の充実が重要であることがわかった。

第5章では、産業遺産への満足をもたらす要因を明らかにするために、重回帰分析を用いて産業遺産における経験が産業遺産への満足に結びつくかを検証し、テキストマイニングを用いて産業遺産における経験等への満足や不満足を探索している。重回帰分析の結果から、産業遺産における経験の多くが産業遺産の満足をもたらす効果が高いことが示された。特に、驚きや珍しさを感じる経験、五感が刺激される経験、高揚感を感じる経験、リラックスする経験、知識や視野が広がる経験および地域の人々に親近感を感じる経験は有効性が高かった。また、自由回答の集約結果から、銀山跡の存在、銀山跡での五感の経験、自然および接客対応が産業遺産の満足をもたらす要因となり、アクセス、産業遺産の価値の伝達ならびに観光サービスに関する不満や要望への対応が産業遺産の満足を増進する要因となることが示唆された。

第6章では、ジオパーク推進活動を評価するために、DEMATELを用いてジオパーク推進のための諸活動を要素とする活動システムの構造的特徴を解明している。その結果、活動システムは本源的活動と経済活性化の2つのシステムから構成されていることが明らかになった。また、観光振興に関わる活動は経済活性化システムの核となり、活動システムの中心的役割を担っていることがわかった。また、ジオ資源の魅力を生み出す活動は本源的活動と経済活性化の両システムを結びつけ、推進活動全体のシステム化を強く促していた。さらに、人材育成に関わる活動は諸活動を媒介しており、システム化への貢献があることがわかった。

最後に第7章では、得られた知見と今後の課題の示し、結論としている。

以上のように本研究は地域資源管理学の研究深化に貢献するものであり、博士（農学）の学位論文として十分な価値を有するものと審査委員一同判断した。